

37. 子宮内膜症性嚢胞の MRI

田中 豊 杉村 和朗 金川 公夫
 山崎 克人 西山 章次 河野 通雄
 (神戸大・放)
 竹森 正幸 (川崎病院・婦)

子宮内膜症は30歳から閉経期までの女性に発生する頻度の高い疾患である。超音波検査、CTの発達により小骨盤腔の診断は容易となったが、子宮内膜症性嚢胞(チョコレートシスト)と他の嚢胞性疾患との鑑別は必ずしも容易ではない。今回手術で確認したチョコレートシストのCTおよびMRI所見を検討したので、MRIの有用性を報告する。

対象ならびに方法

手術にて確認したチョコレートシスト5症例7病変を検討対象とした。

CTは原則として単純CTを用いた。MRIは0.15T常電導型を用い、IR像($TR=2,100$ msec, $TI=500$ msec), SE像($TR=2,100$ msec, $TE=40$ msec と 80 msec)のtransverse像, SE像($TR=1,000$ msec, $TE=40$ msec)のsagittal像, coronal像にて検討した, また病巣のCT値, T_1 値, T_2 値について各症例で検討した。

結 果

1. CTではチョコレートシストはCT値4~28(平均19)とlow density areaとして描出され, チョコレートシストとして特異的所見はなく, 単純性嚢胞と鑑別は容易ではなかった。
2. IR像でチョコレートシストはhigh intensityとして描出される傾向があり, 本疾患に特異的な所見と考えた。
3. T_1 値, T_2 値はともに短縮傾向がみられ, 嚢胞性疾患との鑑別に役立つ可能性が示唆された。

38. 高感度 TSH 測定法 (TSH kit 「第一」 II) に関する基礎的ならびに臨床的検討

西川 彰治 末廣美津子 石村 順治
 樽岡 陽子 高松 祐介 立花 敬三
 福地 稔 (兵庫医大・RI・核)

モノクローナル抗体を用いた, 液相法 Immunoradiometric assay による, いわゆる高感度 TSH 測定法,

TSH kit 「第一」 II につき, その基礎的ならびに臨床的検討を行った。

基礎的検討では, 標準曲線の安定性, 再現性, 希釈試験, 回収試験など, 測定法に要求される諸条件をほぼ満足する成績をえた。本測定法の添付最小標準 TSH 濃度 $0.2 \mu\text{IU} / \text{ml}$ を, 標準 TSH 0 濃度溶液で段階的に希釈したところ, $0.025 \mu\text{IU} / \text{ml}$ まで直線性がえられた。しかし, 標準 TSH 0 濃度の cpm の平均 $+2 \text{ S.D.}$ より求めた最小検出感度は $0.03 \mu\text{IU} / \text{ml}$ であった。健常人46例での血中 TSH 濃度を基に, 正常値を算出したところ $0.68 \mu\text{IU} / \text{ml} - 5.44 \mu\text{IU} / \text{ml}$ の範囲であった。未治療パセドウ病, および, 続発性甲状腺機能低下症では, 全例低値を, また, 原発性甲状腺機能低下症では, 全例高値を示し, 正常値との重複はなく, 健常人との区別が容易であった。また, パセドウ病の抗甲状腺剤による治療経過や, TRH 試験の成績から, TSH kit 「第一」 (以下従来法と略) に比べ, 本測定法は, より鋭敏に血中 TSH を検出できることが確かめられた。一方279例で, 従来法との測定値の比較を行ったところ両測定法で測定値が算出できた162例では, 両者の間に $r=+0.998$, $y=1.10x-0.99$ と良好な相関が得られた。従来法で検出感度以下を示した症例のうち, 本測定法で測定値の算出が可能な症例が80.7%あった。逆に, 本測定法で検出感度以下であった症例のうち, 従来法では測定値の算出が可能な症例が3例(12.0%)あった。

39. 高感度 TSH 測定法 (TSH RIABEAD II) に関する基礎的ならびに臨床的検討

河田 律子 末廣美津子 石村 順治
 村上 稔 佐藤志津子 立花 敬三
 福地 稔 (兵庫医大・RI・核)

高感度 TSH 測定法として開発された, TSH RIABEAD II kit につき, 基礎的ならびに臨床的検討を行った。

本測定法は, モノクローナル抗体を用いた IRMA 法で, 測定時にビーズを測定用チューブに移すため, 標識抗体付着等による非特異的影響の除外が可能である。

基礎的検討では, $0.01 \mu\text{U} / \text{ml}$ から $200 \mu\text{U} / \text{ml}$ までほぼ直線性を示す標準曲線が得られた。最小測定感度を算出したところ $0.01 \mu\text{U} / \text{ml}$ であった。また, 同一測定内と異なる測定間における再現性, および回収試験も,